

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふいーる		
○保護者評価実施期間	令和7年10月31日		～ 令和7年11月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年10月31日		～ 令和7年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常生活動作(食事、排せつ、着脱)に関する支援	園児一人ひとりの特性、特徴を把握、理解して具体的かつ達成可能な目標を設定し、保護者と共有しながら支援を進めている	研修などに積極的に参加し、情報のアップデート、職員間のスキルの平準化に努める
2	コミュニケーション、社会性を育てる支援を実施している。	園児一人ひとりの特性、特徴を把握、理解して具体的かつ達成可能な目標を設定し、保護者と共有しながら支援を進めている	研修などに積極的に参加し、情報のアップデート、職員間のスキルの平準化に努める
3	個別・集団の療育を織り交ぜながら支援を実施している。	園児一人ひとりの特性、特徴を把握、理解して具体的かつ達成可能な目標を設定し、保護者と共有しながら支援を進めている	研修などに積極的に参加し、情報のアップデート、職員間のスキルの平準化に努める

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援開始前、終了後に職員同士が直接情報交換する機会を作ることが難しい。	少ない職員で送迎、時間外療育も実施しているため、当番業務が多くなり職員が全員で集まる、必要な職員がタイミングよく集まるのが難しくなっている。	当番業務も利用のニーズに応えるためには外すことができない。他の業務の量、分担を継続的に見直していく。
2	感覚の偏りに対するアプローチについて	感覚統合などの研修に参加しているが、評価から実践に至る一貫した取り組みの流れを構築しきれていない。	実施時期、場面を限定的に設定し、人の配置、結果の活用も含め計画的に取り組む
3	身体機能、認知機能についての基礎研修	園内活動に参加する園児たちの課題をを検討する際に、自閉症、発達障害と言う側面からの理解と支援に重点をおいているが、その基礎として身体的機能や認知機能の影響についての考察をしっかりとできるようになる必要がある	実施時期、場面を限定的に設定し、人の配置、結果の活用も含め計画的に取り組む。